

## 令和4年度 看護師職能委員会Ⅱ 書面交流会結果 (概要)

令和4年度看護師職能委員会Ⅱ交流会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し書面開催となりました。テーマを『語り合おう 新型コロナとの闘いから見たこと そして今後へ』とし紙上で5つの設問に、各支部より8件の回答が得られました。

### 設問1) 「新型コロナウイルス感染症の対応で大変だったこと (今、大変なこと)」

「診療時のゾーン分けの工夫やPPE等の物品や検査関連用品に関する事」「面会時の工夫とともに、感染対策の統一した教育が大変だった」など、施設内対応についての回答の他に、施設間の情報の共有が図られず、感染対策の対応が遅れる危険等についての回答がありました。

### 設問2) 「感染対策の指針やマニュアルの見直しの機会がありましたか」

見直しの機会については、「ICTチームが中心となり、院内の状況に合わせてタイムリーに見直しをした」「シミュレーションを実施した」「発熱外来の対応手順や国や県の指針に合わせて対応した」等の回答の一方、「緊急会議を開き、対応策を伝えたが見直しできなかったとは言えない」という回答もありました。

### 設問3) 「災害発生時や感染拡大に等に備えて業務継続計画の作成に取り組んでいますか？」

すでに計画書がある場合は、定期的な見直しをしていますか？」

作成中の施設もありましたが、定期的に見直しをしている又は、適宜、見直しをしているとの回答がほとんどでした。

### 設問4) 「介護施設等では「介護施設の看護実践ガイド」や「介護施設における看護職のための系統的な研修プログラム」を活用した研修等を実施していますか」

介護施設の看護実践ガイドや系統的な研修プログラムを利用した教育の実施をしている施設はなく、連携する病院と協働で研修を実施しているとの回答でした。

### 設問5) 「看護師職能Ⅱ領域の会員確保を促進するための工夫やご意見をお聞かせください」

非会員も対象とし、看護師職能Ⅱ領域で働く看護職が現場で抱えている課題について意見交換ができる交流会を企画し、意識づけとなるように取り組んでいる。施設で勤務する看護師を養成する研修を企画し、修了証をいただけるシステムがあると、施設看護師の会員増になるのではという回答もありました。また、定年退職と同時に看護協会を退会し、施設等に再就職し再入会に至らないことが多いため、定年退職の時期の働きかけが重要ではないか、また、支部と協働し施設訪問を行い説明の機会を設けたいが、コロナ禍で思うような計画を実施できない現状の回答がありました。

病院、施設、訪問看護ステーション、学校等、看護職が働くそれぞれの場所で新型コロナウイルスとの闘いから見えたこと、今後の課題などの回答をいただきました。

設問4に関しましては、看護師職能Ⅱ領域に所属する看護職の支援のために日本看護協会が提案したのですが、周知は十分ではないようです。しかし、看護職が働くそれぞれの場所に合わせながら、教育に取り組んでいることがわかりました。

今後も支部のみなさまとの情報をつなぎながら、活動してまいりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

看護師職能委員会Ⅱ

委員長 井上 和子

畠山美由紀

川地 夕子

山崎 秀子

大澤 眞子

佐々木理絵